

体育会系の上司は体育会系の部下よりも嫌われるか

1250539 山口賢二

指導教員 小林豊

研究背景

村上(2023)は、コンジョイント分析を通して、体育会系ステレオタイプが概して同僚として好まれることを明らかにした。しかしながら、村上(2023)の調査は上司や部下といった立場の違いを考慮していないため、さらなる調査の余地がある。

研究目的

本研究では、村上(2023)を修正したアンケート調査を通して、「体育会系の上司は、体育会系の部下よりも敬遠される傾向がある」という仮説を検証する。また村上(2023)において重要度が低かった同僚の属性が、上司に対する好みと部下に対する好みと打ち消しあった結果によるものかどうかを確認する。

調査・分析方法

2水準8属性の評点ベースコンジョイント分析により、上下関係(強い/弱い)、目標設定(高い/ほどほど)、問題解決の方法(忍耐力と根性/思考力と理屈)、飲み会(よく誘う/あまり誘わない)、性格(明るくおしゃべり/静かでおとなしい)、責任感(強い/不足)、時間管理(几帳面/ルーズ)、仕事スタイル(チームプレイ/個人プレイ)の8属性について、各水準が「上司としての好ましさ」、「部下としての好ましさ」、および「体育会系らしさ」に対して貢献する度合いを推定した。

分析結果

8個すべての体育会系ステレオタイプ水準が体育会系らしさに対して有意な正の貢献を示し、村上(2023)と一貫する結果が得られた。「上司としての好ましさ」と「体育会系らしさ」の相関係数は-0.0149となり、相関は見られなかった。責任感-強い、時間管理-几帳面、仕事スタイル-チームプレイが上司としての好ましさに関連を示し、性格-明るくおしゃべり、上下関係-強い、問題解決の方法-忍耐力と根性、飲み会-よく誘うは有意な負の貢献を示した。また「部下としての好ましさ」と「体育会系らしさ」の相関係数は0.171となり、やはりほとんど相関がなかった。責任感-強い、時間管理-几帳面、仕事スタイル-チームプレイが部下としての好ましさに関連を示し、性格-明るくおしゃべり、問題解決の方法-忍耐力と根性、飲み会-よく誘うは有意な負の貢献を示した。

考察・結論

上司と部下のそれぞれの好ましさで正負が反転するステレオタイプ水準は見られず、上司と部下の相関係数は0.719と高い値が得られ、上司として好かれる人物は部下としても好かれやすいことが分かった。したがって、体育会系の上司は体育会系の部下より嫌われるという仮説は支持されなかった。